

## 基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	医療 コミュニケーション学		担当教員	笠井 正晴		
			総時限数	16 時限		講義	単位数	2 単位
開講時期	3 年次通年				授業形態			

## ■ 科目内容

実際に学んでいる鍼灸治療を十分理解し適切に行うことができる。

医療の世界における日本の鍼灸の役割を理解し世界の鍼灸治療環境も理解する。

鍼灸治療時の患者、家族への接遇や応対を適切に行える。

個人の尊厳と患者の権利を尊重し治療にあたる。

医療の他職種の役割を理解できる。

養生学をまなぶ。

生命倫理を理解し問題点に対応できるようにする。

医療をとりまく社会医療制度を理解する。

## ■ 到達目標

本校の教育理念を理解し 礼と礼節を持った医療人へ成長する。

鍼灸医療の社会的環境、法制度を理解し治療できる。

患者の権利を尊重し 守秘義務を 守れる。

患者への応対マナーを修得する。

治療に際して医療安全を修得する。

## ■ 授業方法・教材

教員作成資料や文献資料を活用した教材を用いる。

医療の他職種と交流し理解する。

施術者と患者の関係につき、座学と実学でグループや小人数で行い実践する。

## ■ 学習方法

講義内容、授業テーマを理解し座学と実学で応用できるスキルを学ぶ。

患者対応スキルを学び実践に生かせる。

修得したコミュニケーションスキルを生徒間で実践する。

## ■ 評価基準

課題レポート、授業態度で評価

## ■ 授業計画

回	月/日	出欠	項目
1・2			日本・世界の公衆衛生と感染症
3・4			日本の鍼灸治療を広く世界へ / ネパール鍼灸事情
5・6			鍼灸師として人に接する / ナラティブ法の理解 体験型授業
7・8			養生学の考え方
9・10			鍼灸の応用 / 出産後の身体づくりと東洋医学
11・12			医療面接と診察の実践 / 西洋医学と東洋医学的アプローチによる症例検討
13・14			実際に遭遇する生命倫理の問題点
15・16			社会医療制度とコメディカル他業種の理解

## 専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	臨床医学各論		担当教員	塩崎 郁哉	
開講時期	3年次前期		総時限数	30時限	授業形態	講義	単位数 4単位

## ■ 科目内容

今日において様々な疾患があり、鍼灸治療に訪れる方々の病態や疾患も多岐にわたる。鍼灸治療の適応疾患は数多くある一方で、全てが適応というわけではなく、各種医療機関と連携をとりながら治療を進めていく必要がある。また、鍼灸師もチーム医療の担い手としてのニーズも高まってきており、他の医療従事者との共通認識、共通言語を持つことが求められる。

本講では現代医学の観点から各領域の代表的な疾患の概要を学ぶ。他の専門基礎分野科目の知識と関連づけながら、国家試験の対策のみならず、臨床に活かせる疾患の見方、考え方を身につけていく。

## ■ 到達目標

- ・各領域の代表的な疾患について、その概念、疫学、病態、症状、所見、治療、経過や予後を説明できるようにする

## ■ 授業方法・教材

- ・教員が作成した資料、プリントを中心に授業を進める。
- ・「病気がみえる」各巻（医療情報科学研究所編、メディックメディア）： 教室にあり。

## ■ 学習方法

- ・教科書と教員が配布した資料をもとにして授業を進めていく
- ・解剖学や生理学の知識が本科目を理解するうえで必要になるため、予習・復習では解剖学や生理学の教科書と共に勉強することで、相互の理解がより深まる
- ・日常生活にアンテナを張り、ニュース等で出てくる病気や疾患について興味を持ち、その都度調べてみることで理解が深まる

## ■ 成績評価

- ・中間試験（50%）、期末試験（50%）

## ■ 授業計画

回	月/日	出欠	項目
1			代謝・栄養疾患 : 糖尿病
2			代謝・栄養疾患 : 糖尿病
3			代謝・栄養疾患 : 脂質異常症・肥満症・メタボリックシンドローム
4			代謝・栄養疾患 : 高尿酸血症・痛風
5			代謝・栄養疾患 : ウィルソン病・ヘモクロマトーシス・ビタミン欠乏症・
6			内分泌疾患 : 高プロラクチン血症・先端巨大症・下垂体性巨人症
7			内分泌疾患 : クッシング病・シモンズ病・成長ホルモン分泌不全性低身長症
8			内分泌疾患 : シーハン病・尿崩症・甲状腺機能亢進症
9			内分泌疾患 : 甲状腺機能低下症・甲状腺腫・副甲状腺機能亢進・低下症
10			内分泌疾患 : クッシング症候群・原発性アルドステロン症・アジソン病
11			内分泌疾患 : 褐色細胞腫・腺内内分泌疾患
12			血液・造血器疾患 : 鉄欠乏性貧血・巨赤芽球性貧血・溶血性貧血
13			血液・造血器疾患 : 再生不良性貧血・急性白血病・慢性白血病
14			血液・造血器疾患 : 多発性骨髄腫・悪性リンパ腫
15			血液・造血器疾患 : 紫斑病・血友病・播種性凝固内症候群
16			アレルギー疾患 : アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎など
17			膠原病 : 関節リウマチ
18			膠原病 : 全身性エリテマトーデス
19			膠原病 : 強皮症(全身性硬化症)・多発性筋炎・皮膚筋炎
20			膠原病 : ベーチェット病・シェーグレン症候群
21			膠原病 : 線維筋痛症・慢性疲労症候群
22			感染症 : 細菌感染症
23			感染症 : 細菌感染症
24			感染症 : 細菌感染症
25			感染症 : ウイルス感染症
26			感染症 : ウイルス感染症
27			感染症 : ウイルス感染症
28			その他の領域 : 婦人科・耳鼻科疾患
29			その他の領域 : 皮膚科・眼科疾患
30			その他の領域 : 精神心身医学的疾患

## 専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	衛生学・公衆衛生学		担当教員	塩崎 郁哉	
開講時期	3年次後期		総時限数	30時限	授業形態	講義	単位数 4単位

## ■ 科目内容

衛生学・公衆衛生学とは個人のみならず地域社会や集団において疾病の予防、健康の保持増進、生命の延長をはかるための科学であり、学問である。公衆衛生の歴史には世界的な発展があり、それと同時に様々な問題がみられていた。現代日本においての生活習慣病、少子高齢社会、感染症問題、環境問題など直面する課題に目を向け学んでいく。

## ■ 到達目標

- ・健康な生活を送るための我々をとりまく様々な因子を理解する
- ・社会的な動向を理解し、それらを自らの活動領域で活かせるようにする

## ■ 授業方法・教材

- ・「公衆衛生がみえる」(メディックメディア)
- ・教員が作成した資料、プリント

## ■ 学習方法

- ・教科書と教員が配布した資料をもとにして授業を進めていく
- ・聞いたことのある言葉や、よく耳にする言葉がよく出てくるため、身の回りに起きている事柄に置き換えて考えてみる
- ・細かな数字は年々変化するため、大枠を捉え理解していく

## ■ 成績評価

- ・期末試験(100%)

## ■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			公衆衛生と健康の概念・疫学
2			保健統計
3			医療倫理と患者の人権
4			社会保障制度、医療保障制度
5			地域保健
6			成人保健
7			成人保健
8			母子保健
9			母子保健
10			高齢者保険
11			高齢者保険
12			障害者福祉
13			障害者福祉
14			精神保健福祉
15			精神保健福祉
16			感染症対策
17			感染症対策
18			感染症対策
19			感染症対策
20			食品保健
21			食品保健
22			栄養
23			栄養
24			学校保健
25			産業保健
26			産業保健
27			環境保健
28			環境保健
29			国際保健
30			まとめ

## 専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	リハビリテーション医学		担当教員	工藤 匡	
開講時期	3年次通年		総時限数	38時限	授業形態	講義	単位数 5単位

## ■ 科目内容

単なる機能訓練のイメージを持たれがちなりハビリテーションであるが、本来は「障害を有する人々が可能な限り元の社会生活を取り戻すこと」を意味する。そのため、リハビリテーションには医学に関わる包括的な概念・行為が含まれることになる。本講義では、主にリハビリテーション医学における基本的な概念や、日常生活動作の評価法、疾病・後遺症に対するリハビリテーションなどについて学習する。

## ■ 到達目標

- ・リハビリテーション医学で用いられる基本的な用語や意味を説明できる。
- ・日常生活動作（ADL）に関する評価法について説明ができる。
- ・正常歩行のメカニズムや異常歩行への対処法について説明できる。
- ・主に脳卒中片麻痺など、リハビリテーション各論の基本事項を説明できる。
- ・運動器疾患に対するリハビリテーション各論の基本事項を説明できる。

## ■ 授業方法・教材

- ・教科書：「リハビリテーション医学(第4版) (公社)東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株)」
- ・教員が配布する資料、スライド画像など

## ■ 学習方法

- ・主に座学での学習であるが、必要に応じて学生同士での実習を行う。
- ・包括的な学問であるため、解剖学、生理学、臨床医学総論、臨床医学各論、衛生学・公衆衛生学などの復習が重要となる。

## ■ 評価基準

中間試験・期末試験の成績で評価する。

## ■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			オリエンテーション・リハビリテーションの歴史
2			リハビリテーションの理念
3			リハビリテーションに関わる職種
4			国際生活機能分類（ICF）
5			日常生活動作（ADL）評価法
6			疾病に対する医学的介入法
7			疾病に対する医学的介入法
8			運動療法
9			運動療法
10			物理療法
11			物理療法
12			廃用症候群
13			廃用症候群
14			評価法（MMT）
15			評価法（ROM）
16			義肢・装具
17			義肢・装具
18			脳卒中片麻痺の評価
19			脳卒中片麻痺の評価
20			脊髄損傷の評価
21			脊髄損傷の評価
22			末梢神経障害の評価
23			運動学（関節運動）
24			運動学（関節運動）
25			運動学（歩行）
26			運動学（歩行）
27			リハビリテーション各論（脳卒中）
28			リハビリテーション各論（脳卒中）
29			リハビリテーション各論（脳卒中）



30			リハビリテーション各論（脊髄損傷）
31			リハビリテーション各論（脊髄損傷）
32			リハビリテーション各論（切断）
33			リハビリテーション各論（切断）
34			リハビリテーション各論（脳性麻痺）
35			リハビリテーション各論（神経系疾患）
36			リハビリテーション各論（運動器疾患）
37			リハビリテーション各論（関節リウマチ・パーキンソン病）
38			リハビリテーション各論（呼吸器疾患・心疾患）

## 専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	関係法規		担当教員	志田 貴広	
開講時期	3年次後期	総時限数	15時限	授業形態	講義	単位数	2単位

## ■ 科目内容

我々日本国民は憲法によって権利や自由を守られ、法律という名のルールに則って行動している。このルールを守らなくてはいけない一方で、ルールによって我々は守られていることも忘れてはならない。「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」を学ぶことで、はり師・きゅう師として何を守らなくてはならないのか、どのようなことに守られているのか理解をし、医療としての鍼灸を多くの方に啓蒙していくためにも必須の学問である。またそれに関連づけて他の法律についても学んでいく。

## ■ 到達目標

- ・「あん摩マッサージ、はり師、きゅう師等に関する法律」を通して、鍼灸師というだけでなく社会の一員として臨床に必要な法規を理解する

## ■ 授業方法・教材

- ・「関係法規」：(社) 東洋療法学校協会編、医歯薬出版株式会社
- ・教員が作成した資料、プリント

## ■ 学習方法

- ・教科書と教員が配布した資料をもとにして授業を進めていく
- ・国家試験合格後に関わり合いが強くなる内容も多いが、臨床実習センターのことや自分が臨床勤務や開業することを想像して臨むことで、より理解が深まりやすい

## ■ 成績評価

- ・期末試験（100%）

## ■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			あはき法：免許と試験規定
2			あはき法：免許と試験規定
3			あはき法：施術、施術所に関する規定
4			あはき法：施術、施術所に関する規定
5			あはき法：施術、施術所に関する規定
6			あはき法：施術所の名称、広告の規定
7			あはき法：施術所の名称、広告の規定
8			あはき法：施術所の名称、広告の規定
9			あはき法：罰則規定
10			あはき法：罰則規定
11			関係法規：医療法
12			関係法規：医療法
13			関係法規：その他関係法規
14			関係法規：その他関係法規
15			まとめ

## 専門分野

部	昼間部 夜間部	科目名	東洋医学臨床論		担当教員	川浪 勝弘 大塚 吉則
開講時期	3年次通年	総時限数	38時限	授業形態	講義	単位数 5単位

## ■ 科目内容

運動器疾患の診察および鍼灸治療に必要な知識を修得する。国家試験に出題される可能性の高い疾患や症候について基本的な事項を重点的に学習する。運動器系の主要症候について適切な診察を行うことができ、鍼灸治療の適否を判断した上で治療が出来ることを到達目標とする鍼灸臨床にとって必要な主要症候のうち、排尿障害、咳嗽、睡眠障害などの疾患に対しての疾患の特徴、治療方針、鍼灸治療の方法について学習する。

日常生活における漢方的知識の理解と応用を図る。漢方医学の全体概念を把握する。

## ■ 到達目標

- ・ 臨床上遭遇しやすい疾患に対して、鑑別診断を行うことが出来る。
- ・ 疾患を把握し、疾患の特徴を説明することが出来る。
- ・ 国家試験に出題される疾患に対して、重要点を説明することが出来る。

## ■ 授業方法・教材

教員が作成する資料

## ■ 学習方法

各疾患の特徴を把握し、鑑別診断を行う。  
教員が配布した資料をもとに授業を進めていく。

## ■ 評価基準

中間試験：50点      期末試験：50点

担当職員 川浪 勝弘

資 格 はり師・きゅう師

所 属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経 歴 札幌センチュリー病院

## ■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			運動器疾患
2			運動器疾患
3			運動器疾患
4			運動器疾患
5			運動器疾患
6			運動器疾患
7			運動器疾患
8			運動器疾患
9			スポーツ障害 下肢
10			スポーツ障害 下肢
11			スポーツ障害 上肢
12			スポーツ障害 上肢
13			高齢者に対する鍼灸治療
14			高齢者に対する鍼灸治療
15			高齢者に対する鍼灸治療
16			高齢者に対する鍼灸治療
17			漢方医学
18			漢方医学
19			鑑別診断
20			鑑別診断
21			鑑別診断
22			鑑別診断
23			鑑別診断
24			鑑別診断
25			鑑別診断
26			鑑別診断
27			鑑別診断
28			東洋医学的考え方
29			東洋医学的考え方

30			東洋医学の考え方
31			東洋医学の考え方
32			東洋医学の考え方
33			まとめ
34			まとめ
35			まとめ
36			まとめ
37			まとめ
38			まとめ

## 専門分野

部	昼間部 夜間部	科目名	病態生理学		担当教員	二本松 明 塩崎 郁哉		
開講時期	3年次通年		総時限数	54時限	授業形態	講義	単位数	7単位

## ■ 科目内容

解剖学は人体を構成している細胞や組織におよび構造について、生理学は正常な状態での生体の機能を学ぶ学問である。病態生理学はその正常な機能が破綻することにより、様々な症状や疾病が現れる機序について学ぶ学問である。病理学や臨床医学総論・各論で広く学んだ疾病の症状や徴候について、そのメカニズムについて考えるとともに、解剖学、生理学を復習し理解を深めていく。

## ■ 到達目標

- ・解剖学、生理学の知識を基に、西洋医学的学問の知識を結び付け、疾病について理解を深める

## ■ 授業方法・教材

1年次の生理学、2年次の臨床医学各論、総論の資料

## ■ 学習方法

- ・解剖学、生理学を中心に復習をしながら、それぞれの疾患や徴候がどのように成り立つのか考え、確認していく
- ・解剖学、生理学、病理学、臨床医学総論、臨床医学各論などの復習

## ■ 評価基準

中間試験（50%）、期末試験（50%）

## ■ 授業計画

回	月 / 日	出欠	項 目
1			神経疾患の病態生理
2			神経疾患の病態生理
3			神経疾患の病態生理
4			神経疾患の病態生理
5			神経疾患の病態生理
6			神経疾患の病態生理
7			神経疾患の病態生理
8			神経疾患の病態生理
9			消化器疾患の病態生理
10			消化器疾患の病態生理
11			消化器疾患の病態生理
12			消化器疾患の病態生理
13			消化器疾患の病態生理
14			消化器疾患の病態生理
15			消化器疾患の病態生理
16			消化器疾患の病態生理
17			循環器疾患の病態生理
18			循環器疾患の病態生理
19			循環器疾患の病態生理
20			循環器疾患の病態生理
21			循環器疾患の病態生理
22			循環器疾患の病態生理
23			腎・泌尿器疾患の病態生理
24			腎・泌尿器疾患の病態生理
25			腎・泌尿器疾患の病態生理
26			腎・泌尿器疾患の病態生理
27			腎・泌尿器疾患の病態生理
28			腎・泌尿器疾患の病態生理
29			呼吸器疾患の病態生理



30			呼吸器疾患の病態生理
31			呼吸器疾患の病態生理
32			呼吸器疾患の病態生理
33			呼吸器疾患の病態生理
34			呼吸器疾患の病態生理
35			代謝・栄養疾患の病態生理
36			代謝・栄養疾患の病態生理
37			代謝・影響疾患の病態生理
38			内分泌疾患の病態生理
39			内分泌疾患の病態生理
40			内分泌疾患の病態生理
41			内分泌疾患の病態生理
42			内分泌疾患の病態生理
43			内分泌疾患の病態生理
44			血液疾患の病態生理
45			血液疾患の病態生理
46			血液疾患の病態生理
47			血液疾患の病態生理
48			膠原病の病態生理
49			膠原病の病態生理
50			膠原病の病態生理
51			膠原病の病態生理
52			感覚器疾患の病態生理
53			感覚器疾患の病態生理
54			感覚器疾患の病態生理

## 専門分野

部	昼間部	科目名	社会はり学・きゅう学		担当教員	工藤 匡 志田 貴広		
開講時期	3年次通年		総時限数	16時限	授業形態	講義	単位数	2単位

## ■ 科目内容

学術講演会、学会に参加することによって、臨床の現場で行なわれている最新の知識・技術を学習する。卒前教育の一環として、臨床の現場で活躍している先生方から、地域で期待される鍼灸師業務、社会貢献のあり方について考える。

## ■ 到達目標

1. 各学術講演会に参加し、知識を深める。
2. 来校して頂いた先生方の講義・実技に触れ、内容を理解する。
3. 在学中に鍼灸の業界、卒後のことをイメージすることができるようにする。

## ■ 授業方法・教材

参加した各学会の資料  
講師が作成するプリント

## ■ 学習方法

学会、学術講演会に参加し、学習したことをレポートとして提出する。

## ■ 成績評価

レポート、出席点で評価をする。

## ■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			鍼灸医療安全ガイドライン 外部講師による講演
2			鍼灸医療安全ガイドライン 外部講師による講演
3			鍼灸療養費取扱内容 外部講師による講演
4			鍼灸療養費取扱内容 外部講師による講演
5			学術講演会
6			学術講演会
7			卒前教育
8			卒前教育
9			卒前教育
10			卒前教育
11			卒前教育
12			卒前教育
13			卒前教育
14			卒前教育
15			卒前教育
16			卒前教育

## 専門分野

部	夜間部	科目名	社会はり学・きゅう学		担当教員	工藤 稲垣	匡 吉一	志田 貴広
開講時期	3年次通年		総時限数	16時限	授業形態	講義	単位数	2単位

## ■ 科目内容

学術講演会、学会に参加することによって、臨床の現場で行なわれている最新の知識・技術を学習する。卒前教育の一環として、臨床の現場で活躍している先生方から、地域で期待される鍼灸師業務、社会貢献のあり方について考える。

## ■ 到達目標

1. 各学術講演会に参加し、知識を深める。
2. 来校して頂いた先生方の講義・実技に触れ、内容を理解する。
3. 在学中に鍼灸の業界、卒後のことをイメージすることができるようにする。

## ■ 授業方法・教材

参加した各学会の資料  
講師が作成するプリント

## ■ 学習方法

学会、学術講演会に参加し、学習したことをレポートとして提出する。

## ■ 成績評価

レポート、出席点で評価をする。

## ■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			鍼灸医療安全ガイドライン
2			鍼灸医療安全ガイドライン
3			鍼灸療養費取扱内容
4			鍼灸療養費取扱内容
5			学術講演会
6			学術講演会
7			卒前教育
8			卒前教育
9			卒前教育
10			卒前教育
11			卒前教育
12			卒前教育
13			卒前教育
14			卒前教育
15			卒前教育
16			卒前教育

## 専門分野

部	昼間部 夜間部	科目名	はり・きゅう実技		担当教員	川浪 阿部	勝弘 吉則	志田 煤賀	貴広 有美
開講時期	3年次通年		総時限数	76時限	授業形態	実技	単位数	5単位	

## ■ 科目内容

特定の疾患をテーマにし、疾患の病態、診察法、治療方針および診断（評価）方法について、現代医学的アプローチと東洋医学的アプローチのそれぞれの立場から治療方針を立て、鍼灸を行うことが出来ることを目的とする。また、鍼灸治療の適応と限界を見極め、臨床において適切な対応を身につける。

## ■ 到達目標

- ・疾患別に診察・治療方針を立て、治療を行うことが出来る。
- ・身体各部の刺激方法および経穴に対して、正しく刺鍼法を修得することが出来る。
- ・施灸用具とその取扱い、種々の灸療法、治療点に対して正しく施灸することが出来る。

## ■ 授業方法・教材

教員が作成する資料

## ■ 学習方法

教員がデモンストレーションを行い、その後にペアに分かれて刺鍼・施灸を行う。

## ■ 評価基準

実技試験：60点以上

出席率：80%以上

担当職員 川浪 勝弘

資格 はり師・きゅう師

所属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経歴 札幌センチュリー病院

担当職員 志田 貴広

資格 はり師・きゅう師

所属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経歴 みらい鍼灸院

担当職員 阿部 吉則

資 格 はり師・きゅう師 あん摩マッサージ指圧師

所 属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経 歴 ユリ治療室

担当職員 煤賀 有美

資 格 はり師・きゅう師、看護師

所 属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経 歴 SSCビューティークリニック

## ■ 授業計画

四人の教員で行うため、回と項目が一致しません。

回	月/日	出欠	項 目
1			鍼灸応用実技（内科領域）
2			鍼灸応用実技（内科領域）
3			鍼灸応用実技（内科領域）
4			鍼灸応用実技（内科領域）
5			鍼灸応用実技（耳鼻科領域）
6			鍼灸応用実技（耳鼻科領域）
7			鍼灸応用実技（耳鼻科領域）
8			鍼灸応用実技（耳鼻科領域）
9			鍼灸応用実技（脳神経外科領域）
10			鍼灸応用実技（脳神経外科領域）
11			鍼灸応用実技（脳神経外科領域）
12			鍼灸応用実技（脳神経外科領域）
13			鍼灸応用実技（日本伝統鍼灸）
14			鍼灸応用実技（日本伝統鍼灸）
15			鍼灸応用実技（日本伝統鍼灸）
16			鍼灸応用実技（日本伝統鍼灸）
17			鍼灸応用実技（日本伝統鍼灸）
18			鍼灸応用実技（日本伝統鍼灸）
19			鍼灸応用実技（日本伝統鍼灸）
20			鍼灸応用実技（日本伝統鍼灸）

21		鍼灸応用実技（日本伝統鍼灸）
22		鍼灸応用実技（日本伝統鍼灸）
23		鍼灸応用実技（日本伝統鍼灸）
24		鍼灸応用実技（日本伝統鍼灸）
25		鍼灸応用実技（日本伝統鍼灸）
26		鍼灸応用実技（日本伝統鍼灸）
27		鍼灸応用実技（日本伝統鍼灸）
28		鍼灸応用実技（日本伝統鍼灸）
29		鍼灸応用実技（現代鍼灸）
30		鍼灸応用実技（現代鍼灸）
31		鍼灸応用実技（現代鍼灸）
32		鍼灸応用実技（現代鍼灸）
33		鍼灸応用実技（現代鍼灸）
34		鍼灸応用実技（現代鍼灸）
35		鍼灸応用実技（現代鍼灸）
36		鍼灸応用実技（現代鍼灸）
37		鍼灸応用実技（現代鍼灸）
38		鍼灸応用実技（現代鍼灸）
39		鍼灸応用実技（現代鍼灸）
40		鍼灸応用実技（現代鍼灸）
41		鍼灸応用実技（現代鍼灸）
42		鍼灸応用実技（現代鍼灸）
43		鍼灸応用実技（日本伝統鍼灸）
44		鍼灸応用実技（日本伝統鍼灸）
45		鍼灸応用実技（日本伝統鍼灸）
46		鍼灸応用実技（日本伝統鍼灸）
47		鍼灸応用実技（日本伝統鍼灸）
48		鍼灸応用実技（日本伝統鍼灸）
49		鍼灸応用実技（日本伝統鍼灸）
50		鍼灸応用実技（日本伝統鍼灸）
51		鍼灸応用実技（日本伝統鍼灸）



52		鍼灸応用実技（日本伝統鍼灸）
53		鍼灸応用実技（中医学）
54		鍼灸応用実技（中医学）
55		鍼灸応用実技（中医学）
56		鍼灸応用実技（中医学）
57		鍼灸応用実技（中医学）
58		鍼灸応用実技（中医学）
59		鍼灸応用実技（中医学）
60		鍼灸応用実技（中医学）
61		鍼灸応用実技（中医学）
62		鍼灸応用実技（中医学）
63		鍼灸応用実技（中医学）
64		鍼灸応用実技（中医学）
65		鍼灸応用実技（中医学）
66		鍼灸応用実技（中医学）
67		鍼灸応用実技（中医学）
68		鍼灸応用実技（中医学）
69		鍼灸応用実技（中医学）
70		鍼灸応用実技（中医学）
71		鍼灸応用実技（中医学）
72		鍼灸応用実技（中医学）
73		美容鍼灸
74		美容鍼灸
75		美容鍼灸
76		美容鍼灸

## 専門分野

部	昼間部 夜間部	科目名	臨床実習		担当教員	阿部	吉則	志田	貴広
			堀	二葉		煤賀	有美		
開講時期	3年次通年	総時限数	46時限	授業形態	実技	単位数	2単位		

## ■ 科目内容

実際の鍼灸臨床の現場において、これまで学んできた座学および実技の知識・技術を確認し、総合的に応用できる能力を育成する。

## ■ 到達目標

1. 情報収集（医療面接、身体診察、基本的検査、連絡・報告）
2. 評価と治療計画の立案（教科書文献的知識と検索、鍼灸の適応・不適応の判断、診療録記載）
3. 治療計画の実施（安全で適切なはり・きゅう施術、患者へのフィードバック）
4. 鍼灸診療・学習行動の基盤となる態度（患者および他のスタッフへの接し方、自己の能力に即した行動、助言の受け入れ、自己研鑽への意欲）

## ■ 授業方法・教材

1. 付属臨床センターにおいて、実際の外来患者を相手にグループ単位で臨床実習を行う。
2. 臨床実習の担当グループでない場合には、実技室で講義など受ける。
3. 臨床実習の内容について、診療録および実習日誌に記載し、提出する。
4. クール最終日2限目は症例発表を行う。

## ■ 学習方法

臨床実習では実際の外来患者を相手とするため、臨機応変な対応力が求められる。普段から観察力を高め、医学的な疑問を持つことを習慣づけながら、自らが積極的に問題解決するための行動をとってほしい。

## ■ 評価基準

1. 出席の9割を満たさないものには単位を認めない。
2. 期日までに診療録、臨床実習日誌を提出しないものには欠席扱いとなる。
3. 身だしなみが出来ていない者（白衣、装飾品等）は臨床実習に参加できない。
4. 第3クールまでに臨床前実習試験に不合格の場合は単位未認定とする。

## ■ 連絡事項

1. 臨床実習前実技試験で一定の基準に達しなかった学生は、臨床実習のグループには参加せず、フォローアップ実習に参加する。
2. グループ編制についてはクラスで協議し編成する。ただし、クラス内での協議にて問題が生じたとき教務が判断したときは、以後のグループ編成は教務で行うこととする。
3. 詳細については学生の手引き参照すること。

担当職員 阿部 吉則  
 資格 はり師・きゅう師 あん摩マッサージ指圧師  
 所属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター  
 経歴 ユリ治療室

担当職員 志田 貴広  
 資格 はり師・きゅう師  
 所属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター  
 経歴 みらい鍼灸院

担当職員 堀 二葉  
 資格 はり師・きゅう師 あん摩マッサージ指圧師  
 所属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター  
 経歴 ふたば鍼灸マッサージ院

担当職員 煤賀 有美  
 資格 はり師・きゅう師、看護師  
 所属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター  
 経歴 SSCビューティークリニック

## ■ 授業計画

回	月/日	出欠	項目
1・2			オリエンテーション
3-18			導入
19-27			臨床実習 第1クール
28-36			臨床実習 第2クール
37-44			臨床実習 第3クール
45-46			総括 症例発表

詳細は臨床実習学生の手引き参照

## 専門分野

部	昼間部 夜間部	科目名	総合領域 I		担当教員	工藤 匡	
開講時期	3年次後期		総時限数	38時限	授業形態	講義	単位数 5単位

## ■ 科目内容

本科目は国家試験対策の授業にも位置付けられており、1年次の基礎教科である解剖学・生理学・東洋医学概論・経絡経穴概論のほか、2年次の病理学や臨床医学総論・各論の重要ポイントに関連付ながら復習していく。

複数科目の振り返りを行っていくため、必要に応じて、担当教員複数体制で行っていく。

## ■ 到達目標

- ・問題演習を通して、振り返り、理解を深める。
- ・国家試験の過去問題に正答できる知識を身につける。

## ■ 授業方法・教材

- ・解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論、病理学、臨床医学総論、臨床医学各論などの教科書や授業プリント
- ・国家試験過去問などの問題配布
- ・必要に応じて資料を配布する
- ・科目により担当教員が入れ替わる可能性あり

## ■ 学習方法

- ・少しずつ国家試験過去問を実施し、問題の傾向や頻度の高い分野を把握する
- ・必ず授業で振り返った内容を再度復習し、身につけていく

## ■ 成績評価

中間試験（40%）、期末試験（60%）

## ■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			
33			
34			
35			
36			
37			
38			

各科目問題演習とその解説と振り返り  
 関連分野の確認  
 ※詳細は別途紙面で配布します

## 専門分野

部	昼間部 夜間部	科目名	総合領域Ⅱ		担当教員	塩崎 郁哉	
開講時期	3年次後期		総時限数	38時限	授業形態	講義	単位数 5単位

## ■ 科目内容

本科目は国家試験対策の授業にも位置付けられており、臨床医学各論・臨床医学総論を中心に、病理学やはりきゅう理論の復習を行っていく。特に臨床医学各論は国家試験に出題される問題数も多いことから、点数アップには重要な科目であると考えられる。

複数科目の振り返りを行っていくため、必要に応じて、担当教員複数体制で行っていく。

また、後期から各月で模擬試験を実施していく予定のため、総合Ⅱの中で、模擬試験を実施していく。

## ■ 到達目標

- ・問題演習を通して、振り返り、理解を深める。
- ・模擬試験を通して理解度や問題の傾向などを確認する。

## ■ 授業方法・教材

- ・臨床医学各論、臨床医学総論、病理学、はりきゅう理論などの授業プリント
- ・国家試験過去問などの問題配布
- ・必要に応じて資料を配布する
- ・科目により担当教員が入れ替わる可能性あり

## ■ 学習方法

- ・少しずつ国家試験過去問を実施し、問題の傾向や頻度の高い分野を把握する
- ・必ず授業で振り返った内容を再度復習し、身につけていく

## ■ 成績評価

- ・中間試験（40%）、期末試験（60%）

## ■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			各科目問題演習とその解説と振り返り
20			関連分野の確認
21			各月1回は模擬試験を実施する
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			
33			
34			
35			
36			
37			
38			